

平成24年度 関東甲信越診療放射線技師学術大会参加報告

埼玉県診療放射線技師会
副会長 橋本 里見

平成24年度関東甲信越診療放射線技師学術大会が、10月6日（土）～7日（日）の2日間、栃木県宇都宮市にある栃木県総合文化センターおよび宇都宮東武ホテルグランデにて開催されました。この学術大会は、平成21年度から北関東地域と南関東地域の1都9県が、合同で学術大会を開催することになり、今回で4回目の大会となります。本年度は北関東地域の栃木県が担当し開催されました。日程的には前週に日本診療放射線技師会の学術大会が開催され、また同週には日本放射線技術学会秋季学術大会も開催されるという厳しい日程の中、参加者は400人を超え、盛会のうちに大会は終了しました。

今大会は、「日本の今、医療界の今、そして未来へ」というテーマで開催されました。深刻な経済不況と円高、医療費の削減、医療技術の急激な進展、福島第一原発による放射線被ばく、医療の質の向上、チーム医療の推進など、診療放射線技師を取り囲む日本と医療界の現状を見つめ、将来・未来に向けて、今必要なもの、足りないもの、そして学ぶべきものを見つけ出し、「安心安全な医療」を提供していくための「情報と技術の共有」の場にしなければと、大会長の栃木県放射線技師会神山会長が挨拶で述べていました。

学術大会の内容は、特別講演を公益社団法人日本診療放射線技師会の中澤靖夫会長が「日本診療放射線技師会の役割と時代の潮流」と題して、職能団体としての役割と事業について分かりやすく述べていました。他、市民公開講座として、自治医科大学医療安全学教授の河野龍太郎先生による「医療の安全は本当に実現できるのか?」、FM栃木アナウンサーの鹿島田千帆先生による「良い声でコミュニケーション力UP!」の2講座が行われました。教育セミナーは、とちぎ子ども医療センターの古川理恵子先生、済生会横浜市東部病院の船曳知弘先生、一般財団法人Aiセンターの山本正二先生による3題のセミナーが行われました。そしてシンポジウムは、治療・核医学・単純・造影・コンピュータ断層の5部門について「診療放射線技師に今、足りないもの、そして必要なもの?」をテーマに討論が行われました。また一般演題は78題の発表があり、比較的若い年代の会員発表、学生の発表などが多く、今後の診療放射線技師の発展が期待される発表の場となっていました。

さて、この学術大会では栃木県放射線技師会の依頼を受け、特別企画として我々埼玉県診療放射線技師会担当で、フィルムリーディング（読影体験）コーナーを設け実施しました。これは、2年程前の厚労省医政局通知の「読影補助業務」を体験し、各都県放射線技師会で読影に関して今以上の関心を持っていただく目的で行いました。従来の埼玉放射線学術大会で行っているフィルムリーディングを少し発展させ、(株)ドクターネットのご協力により、4モダリティ全てをモニター診断にて行う手法としました。2日間トータルで70人の会員が体験し、当初の予想を上回る来場者となり、目的は達成できたと考えています。

以上、簡単な報告となりましたが、今回の学術大会を担当した栃木県放射線技師会には一昨年から準備されて大変ご苦勞があったと思います。神山大会長をはじめとした実行委員の皆様へ感謝を述べ学術大会参加報告とします。

